

色彩用語に対する感覚は人によって違うのか

谷和奏 23B40898
東京工業大学生命理工学院

1. はじめに

Research Question:

紫色といわれて思い浮かべる色は人によって違う

色彩用語に対して対応している色・色に対して対応している色彩用語は、文化圏が同じ(同じ日本人)であっても人によって違うと考えるので、色彩用語と色の関係について調べてみる。

2. 方法

紫色と赤色をそれぞれ四つ与え、「紫」といわれたとき、どの紫色を思い浮かべるかについてと、色を二つ与えそれぞれの色を何色だと思うかについての合計4つのアンケートをGoogle Formでつくり、TwitterやInstagramやLINEでGoogle FormのURLを送って周りの人に答えてもらった。

3. 結果

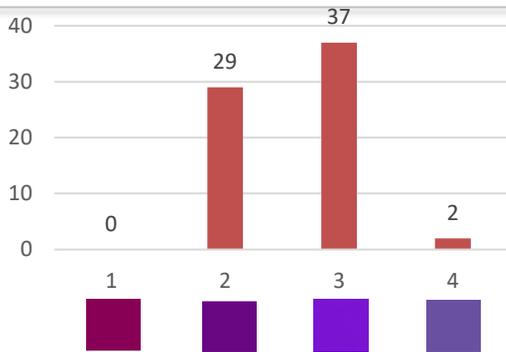


図1. 紫といわれてどの色を思い浮かべるか

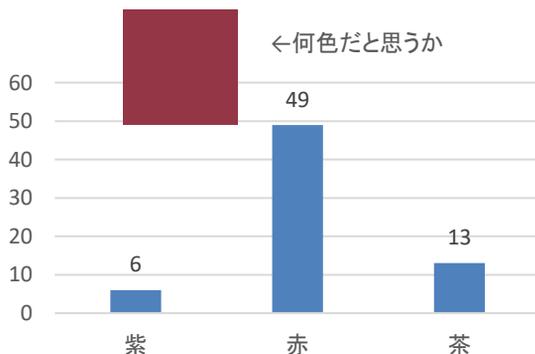


図2. 何色か

「紫といえば」といわれて思い浮かべる色も、「赤といえば」といわれて思い浮かべる色も、ばらつきがあった。見た色に対して、何色だと思うかについてもばらつきがあった。



4. 考察

結果に記したとおり、赤色も紫色も、その色に対して思い浮かべる色に人によって差があった。

また、色を見たときにその色が何色だと思うかについても人によって差があった。

つまり、色彩用語にたいして対応している色も、色に対して対応している色彩用語も文化圏が同じであっても人によって違うのだと考えられる。

しかし、色彩用語に対しての色は、赤色も紫色も四択のアンケートで、票はほとんど二択に分かれた。また、その二つの選択肢は似ている色だった(似ているかどうかは私の主観だが)。

色彩用語に対して対応している色に多少の差はあるが、日常生活で違和感があるほどではないと思う。

一方で、色に対しての色彩用語(色を何色だと思うのかについて)に違いがあるというのは日常生活に影響があると思う。

例えば、今回の図二の色の帽子をかぶっている人がいるとして、「青色の帽子」という人もいれば「紫色の帽子」と言う人もいる。これを紫だと思う人からすれば「青色」と言われたらどの帽子のことを指しているかわからなくなってしまうだろう。

青・紫のような大雑把な色彩用語ではなくもっと細かい色彩用語であれば定義がより明確で、人によって感覚が違うということは減り、誤解が生まれなくなると思う。日常的に色に積極的に触れている人のほうが、色を細分化して分類していると文献に書いてあった。色彩用語に対しての感覚の違いを克服するためには日常的に色に関心を持つ必要があるのだと思った。

5. おわりに

紫といわれて思い浮かべる色は人によって差があるという命題を用いて、色彩用語に対しての感覚は文化圏が同じ人でも異なるのではないかということ調べた。

アンケートを実施した結果、紫色といわれて思い浮かべる色には差があり、そのほかの結果からも確かに色彩言語に対しての感覚は、同じ文化圏の人であっても人によって違うということが分かった。

文献:

色彩への関心度と色カテゴリー分類の関係、佐々木三公子・松本久美子・川端康弘、2023/3/31

DOI https://doi.org/10.20654/hps.45.0_33